

Bunka Navi 文化ナビ

〒757-0002 山陽小野田市大字郡 1754 番地 ☎71-1000 FAX71-1002 E-mail:bunka-kaikan@city.sanyo-onoda.lg.jp

文化の薫るまちになあれ…
不二輸送機ホール
(山陽小野田市文化会館)
休館日：第1・第3火曜日

山陽小野田市とガラス

本市は、昔から窯業のまちとして発展しており、その窯業を伝承しつつ新しい市の文化を創造・発信しようとした際に、本市出身の現代ガラス作家である竹内傳治氏と窯業の一つであるガラスに注目し、平成12年に旧小野田市の市制施行60周年記念事業として「日本の現代ガラス展」(日本を代表するガラス造形作家60人の作品展と竹内傳治記念講演会)を開催したのが、現代ガラス展の始まりです。

■身近なガラスとの触れ合い

ガラス展も今年で第8回目を迎え、「ガラスのまち山陽小野田」を継続して全国に発信しています。身近なところでは、市内外で開催している、ジェルキャンドル(写真左)や万華鏡を作るガラス制作教室も好評です。また、赤ちゃんの足形をエナメル絵付けでガラスに焼き付け、記念プレートを制作できるガラス体験(写真右)も、子どもの成長を記す、思い出の作品の一つとして大変喜ばれています。

また、市役所や図書館など市内各所で、歴代のガラス展受賞作品を常設展示しており、間近でガラス作品を楽しむことができます。芸術品としてのガラス作品を鑑賞していただくもよし、きららガラス未来館や館外で行っているガラス体験を楽しんでいただくもよし…。「ガラスのまち山陽小野田」を身近に感じてみませんか？



山口宇部空港でガラス作品を展示

本市のガラス文化の魅力に触れてもらおうと、市が所有するガラス作品を山口宇部空港ビル2階出発ロビーで展示します。ガラス芸術の世界をぜひこの機会にご覧ください！

- 期間：9月17日(木)～10月18日(日)
- 展示作品：本市出身のガラス作家竹内傳治氏の作品、過去の現代ガラス展受賞作品

イベント情報

COLUMN

秋は悲しい季節？

月みれば ちぢに物こそ悲しけれ
わが身ひとつの 秋にはあらねど

大江千里

〈現代訳〉月を見ていると、あれこれと物悲しくなるなあ。私一人だけに秋がやってきたわけではないのだけれど。

「月」は秋の季語です。日本人は、月は秋が一番美しいと感じてきました。また「秋」になると、なんとなく「悲しい」と感じる人も多いと思います。本来は、秋は収穫の喜ばしい季節なのですが、このように「悲しい季節」と感じるようになったのは、平安時代の初め、中国からの影響によります。中国では、秋の感傷的な気持ちを表現する漢詩が多く作られました。この和歌も、中国の詩人、白楽天の「秋の夜は私一人のためだけに長い」と悲しみ嘆く詩が元になっています。その詩とはまったく逆に「私一人だけの秋ではない」と言っているところが大江千里のセンスですね。「千」と「一」の数字の対比も技巧的です。

作者の大江千里は、在原業平・行平の甥で、父親は有名な漢学者でした。漢文の教養が豊かで、漢詩を取り入れた和歌を詠むのが得意でした。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部
顧問 青池 のぞみ

お知らせ

新型コロナウイルス感染症対策として、不二輸送機ホール(文化会館)は、9月22日(祝)まで貸館業務を休止します。

9月23日(水)以降の利用申請受付は行っていますが、状況によって利用をお断りする場合があります。

ご理解いただきますようお願いいたします。